

## ラムジー・テストと真理の余剰説

三浦俊彦

ラムジーの主な哲学的貢献とされる項目のうち、「ラムジー・テスト」と「真理の余剰説」との関係を探りたい。主に次の3点を論ずる。

1．反事実的条件文の真偽をラムジー・テストによって受容するさい、満たされねばならない語用論的条件は何か。

2．語用論的条件を明確にしたとき、反事実的条件文について「真である」という演算子の省略が許されない場合があるのではないか。

3．真理の余剰説の批判的吟味が、排中律の曖昧な解釈に一石を投ずることができるのではないか。

これらは、真理の余剰説の批判を目的とするものではなく、ラムジー・テストに関連した諸々の論題における「真理」の本性についての再考にとどまるが、とりわけ、直接法的条件文の評価によって現実世界の実相を確率的に推定しようとする最近の「シミュレーション論法」にラムジー哲学を適用できるか否かという大枠を見据えるうえで、有益な問題提起ができればと考えている。